



杉森だより

令和3年 5月28日
調布市立杉森小学校
校長 清水 吏

<http://www.chofu-school.jp/sugimori-sho/>



sugimori-sho@chofu-schools.jp

「個性」と「集団」

校長 清水 吏

先日、5年生の授業を参観する機会がありました。国語科「言葉と事実」の単元でした。5つの言葉の中で「言われて嬉しい言葉」と「言われて嫌な言葉」を選び、その理由を考え、話し合うという授業でした。一人一人の言葉に対する受け止め方には違いがあるということを知っていましたが、皆さんにも考えて欲しいと思い、紹介します。(1)まじめだね (2)おとなしいね (3)一生懸命だね (4)個性的だね (5)マイペースだね 皆さんは「嬉しい言葉」「嫌な言葉」はどれでしょうか？参観したクラスでは、見事に別れ、「『まじめだね』は馬鹿にされていると感じる。」「『マイペースだね』は自分をしっかり持っているみたいで言われるのは嬉しい。」「どれも嬉しいけど、言い方や誰に言われるかで違う。」など、様々な意見が飛び交いました。さすが高学年と思う深い意見があり、発言する姿も堂々としていました。

日本人は群れたがり気質をもつ、集団行動を好むなどと評されることがあります。「同調圧力」とか「KY(空気が読めない)」などという言葉も使われ、コロナ禍においては、「自粛」や「マスク着用」の強要も話題になります。そんな日本では「(4)個性的」という言葉は、ネガティブに捉える大人が外国の人と比べて多いとの話も耳にしました。もちろん、群れたがり気質は、悪い面ばかりではありません。「みんなに負けられない。」という気持からモチベーションを高めたり、衝突することを避け、和を尊ぶ規範行動ができたりと、災害時など海外から評価されるよさもあります。これからの日本を作る子供たちには、バランスのとれた「個性の発揮」と「集団意思決定の遂行」を身に付けて欲しいと考えます。5年生の子供たちが生き生きと学び、自由闊達に発言している姿を見て、改めてこのようなことを思いました。

学校は、個性豊かな子供たちが集まります。育ってきた環境や特性によって、一人一人違います。それを「よさ」ととらえて前に進ませることが必要です。いじめや人権、望ましい社会規範など、学級や集団として決めることは最小限にして、個性を認め励ますことを意識して教育活動を実施していきます。できないこと、苦手なことを補い平均を目指すのではなく、好きなこと、得意なことを伸ばして、グローバル社会を生き抜く力を身に付けてほしいと願っています。

6月行事予定

今後の感染症拡大状況により変更の場合もあります。

1日	火	全校朝会 ふれあい月間 安全指導日 あいさつ運動週間始 曜日5時間授業始(1)	16日	水	歯科検診(3.5)
2日	水	水曜日5時間目授業始(2)	17日	木	集会 たてわり班遊び 自転車安全教室(3)
3日	木	体力テスト 水泳前健康相談 木曜日5時間授業始(1)	18日	金	B時程 朝読書 遠足予備日(4)
4日	金	B時程 朝読書 体力テスト あいさつ運動週間終	21日	月	水道キャラバン(4) クラブ活動
7日	月	水泳指導始 5時間授業日(5.6)	22日	火	B時程 全校朝会
8日	火	全校朝会	23日	水	歯科検診(1.4) 中学校授業体験(6) 下水道局出前授業(4)
9日	水	歯科検診(2.6)	24日	木	授業参観・保護者会(1)
10日	木	木曜日6時間授業始(3)	25日	金	授業参観・保護者会(5)
11日	金	B時程 朝読書 遠足(3)	28日	月	読書旬間始 朝読書 クラブ活動
14日	月	避難訓練 委員会活動	29日	火	全校朝会 色覚検査(4希望者) 授業参観・保護者会(6)
15日	火	B時程 全校朝会	30日	水	朝読書 オリパラ講演会

※(1)は学年、①は校時を表します。

